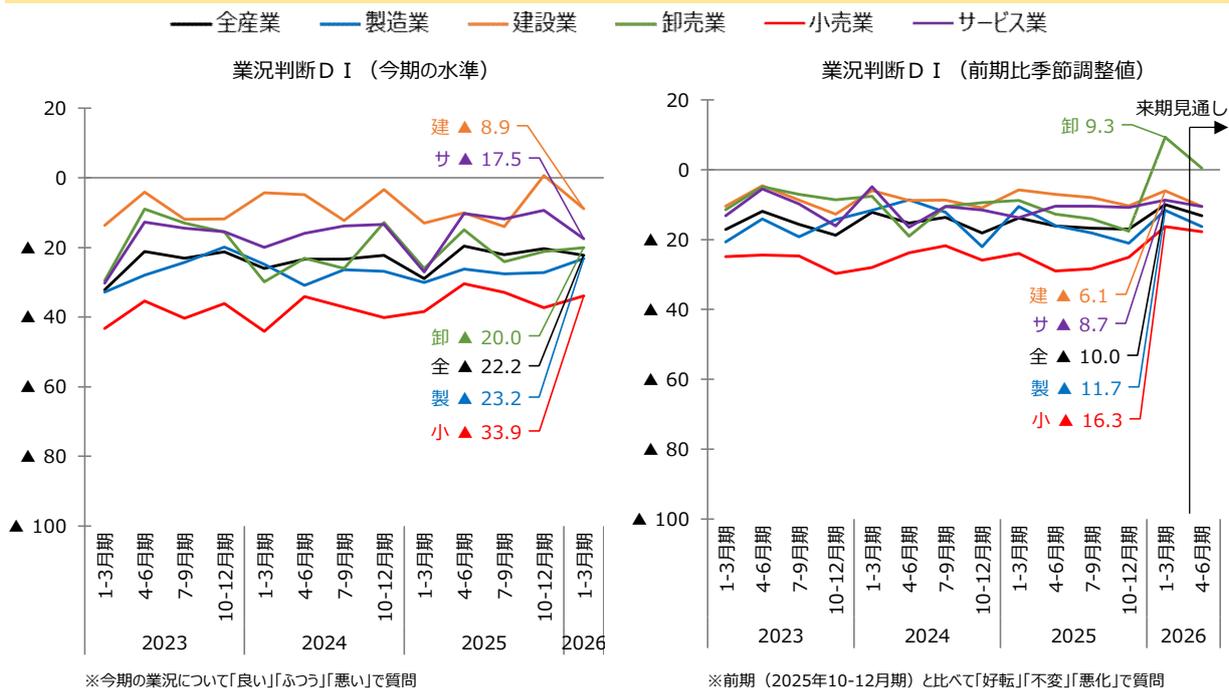


第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 四国



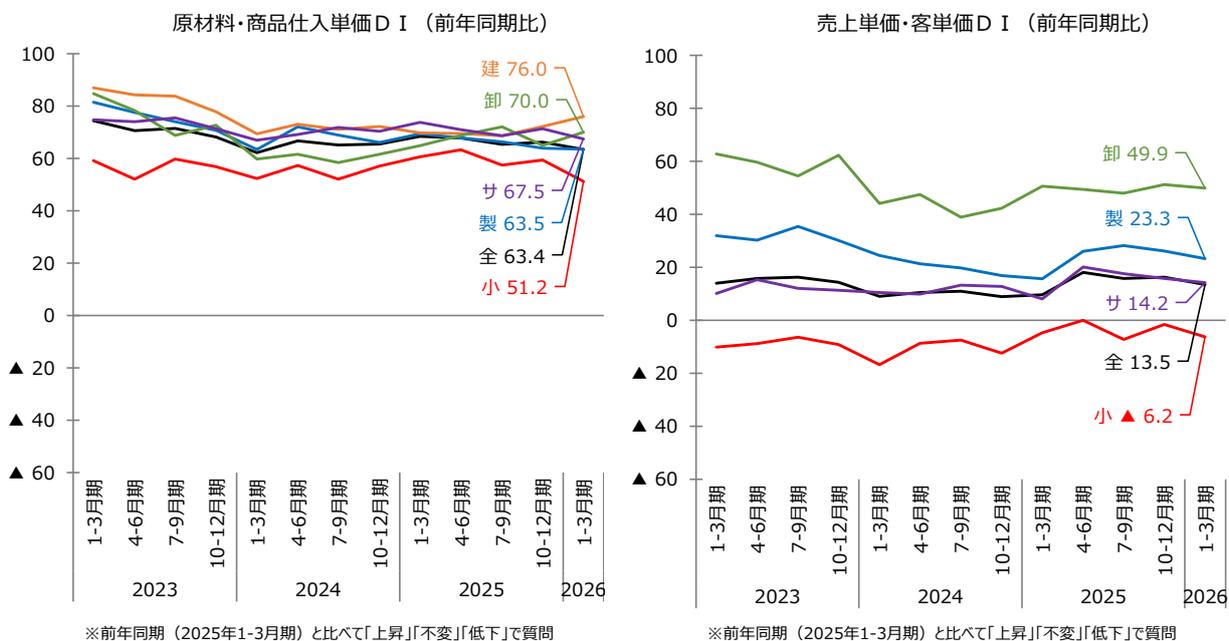
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より1.9ポイント減の▲22.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業、卸売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.8ポイント減の63.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.8ポイント減の13.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
 今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、四国：1,282企業

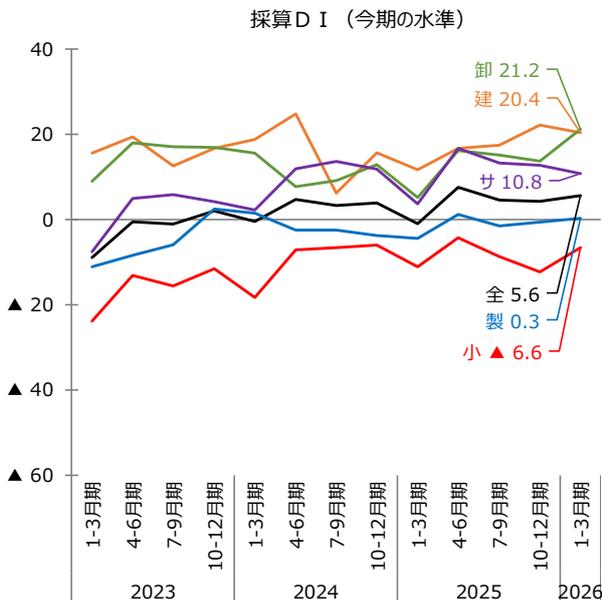
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 四国



3. 採算

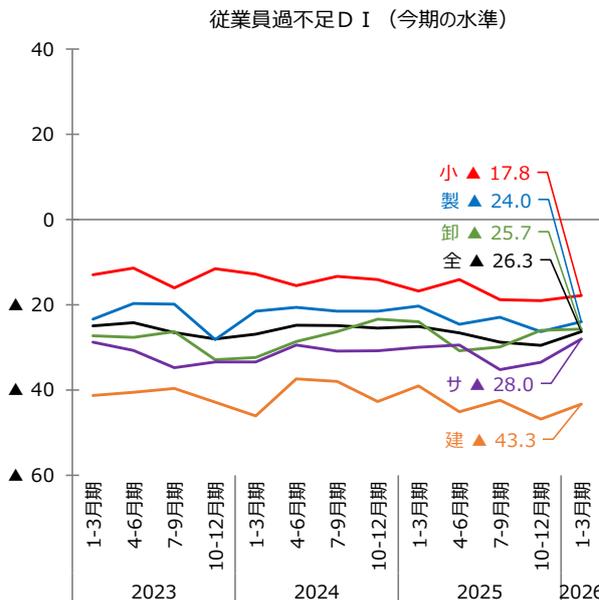
採算DIは、全産業で前期より1.3ポイント増の5.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、サービス業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.2ポイント増の▲26.3と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	円安の長期化や2025年度からの省エネ基準義務化に伴う建材需要の変化が価格を下支えている結果、依然木材等の資材価格が高いままである。現状問題はないが、今後どうなるかが予想できない状態が続いている。	製造業	畳製造業
	大型工事や長期工事が混在して受注しているため、常に業況を把握しながら、採算（原価）を管理して進捗する重要性を持つよう管理者に促している。	建設業	一般土木建築 工事業
	全体的に値上げをしたことで、売上を伸ばしている状態になっているが、値上げの理由の大きな要因である人件費等の経費の増加が、想定以上であると感じている。	卸売業	その他の食料・ 飲料卸売業
	安いものから、高くても付加価値が得られるもの（体験型）が求められてきている。独自性、強みを伸ばし、ここしか得られないものを提供していこうと思っています。	小売業	酒小売業
	動画編集の利用客は多く、定期的に需要があるが、低単価で収益は低い。HP制作はレポート需要に反して、新規獲得が困難な状況である。	サービス業	受託開発ソフト ウェア業
見通し	当社主力の自動車関連部品の引合いは、徐々に戻ってきている印象である。しかしながら、原材料や人件費アップの価格転嫁は十分ではなく、今後の課題と認識している。	製造業	真空装置・真 空機器製造業
	市場が活発になりかけたところで、今年に入ってから銅相場をはじめとする大幅な値上がりで、混乱すると予想する。	建設業	一般電気工事 業
	業界他社の廃業などが原因で、継続している自社に注文が増えてきている。技術的には長い時間をかけて蓄積してきたので、この特色を生かし、外国への販売も視野に入れている。	卸売業	その他の農畜 産物・水産物 卸売業
	中学校、高校の入学シーズンとなり、学生服が売れる時期である。しかし、近年はネット販売での購入が増えており、当店は厳しい状況である。今期は、1年で最も売れる時期であるが、来期は売上が落ち込むと予想する。	小売業	呉服・服小 売業
	リピータ客が多く業況は、概ね維持または好転することを見込んでいる。過ごしやすい季節を迎えるこれから利用客が増えることを期待する。	サービス業	旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)